

短期予報解説資料 2026年8月7日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 大型で強い台風第13号が沖縄本島地方や奄美地方に最接近して西進。与論島で猛烈な風を観測。中心のごく近くとやや離れた所に発達した対流雲の帯がらせん状に連なり、非常に激しい雨を解析。強風域が九州にかかり、東日本にかけての太平洋側では強い雨や激しい雨が断続。
- ② アムール川下流の寒冷渦から沿海州に連なるトラフの東側の500hPa5760～5820mlに沿って前線があり、低気圧がサハリンを北東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風第13号は、引き続き強い勢力を保って西に進む。8日にかけて次第に速度を下げ、9日にかけて東シナ海を進む。台風の影響で猛烈な風が吹き、猛烈なしけとなる所や、うねりが到達し、大しけとなる所がある。沖縄地方と奄美地方では8日にかけて、暴風、うねりを伴う高波に厳重に警戒。9日も高波に警戒。西日本太平洋側では8日にかけて、うねりを伴う高波に警戒。9日も注意。強風域に入っている西日本では8日にかけて強風に注意。東・北日本太平洋側では9日にかけて、うねりを伴う高波に注意。沖縄地方では8日は、高潮に厳重警戒。
- ② 台風中心をとりまく発達した対流雲がかかる南西諸島では、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、九州南部では9日にかけて、東日本にかけての太平洋側では8日にかけて、台風北側を流れ込む暖かく湿った空気が上昇する南～東に開けた山地を中心に、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨が断続し大雨となる所がある。また、西日本から東北地方にかけては9日にかけて、湿った空気と日中の気温上昇に伴い大気の状態が不安定となり局地的に対流雲が発達し、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。さらに、前線が通過する北日本では8～9日は、前線南側の下層暖湿気と上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方では8日にかけて、奄美地方では7日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。全国的に9日にかけて、低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項②の前線の南側では夏の空気に覆われ、台風に伴う雲がかからない地方では晴れて気温が上昇。広く真夏日となり、西～北日本では猛暑日の所がある。9日にかけて、熱中症などの健康管理に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

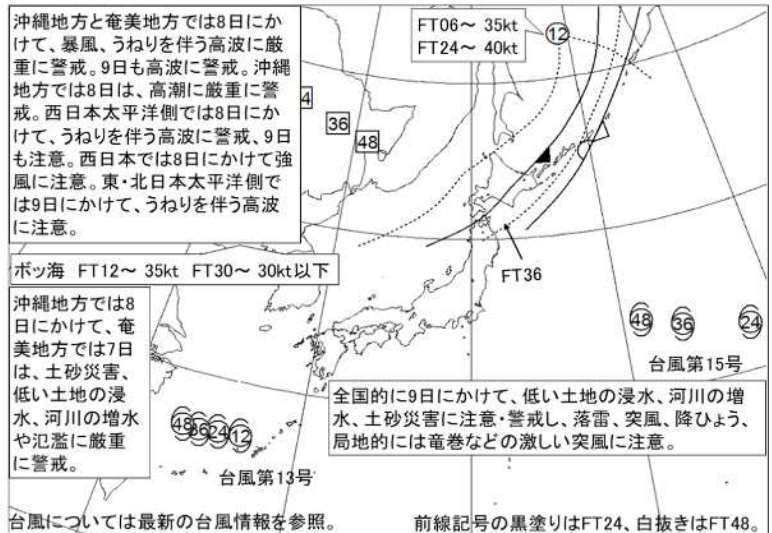
総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布は実況やMSM等を参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：沖縄200、奄美・九州南部180、九州北部120、四国・東海・関東甲信100mm。② 波浪(明日まで)：沖縄・奄美10、九州南部8、四国6、九州北部・近畿5、東海4、伊豆諸島・関東・東北3m。③ 高潮：沖縄地方では8日は危険警報基準を超過する所がある。

5. 全般気象解説情報発表の有無

全般気象解説情報(台風第13号)を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図